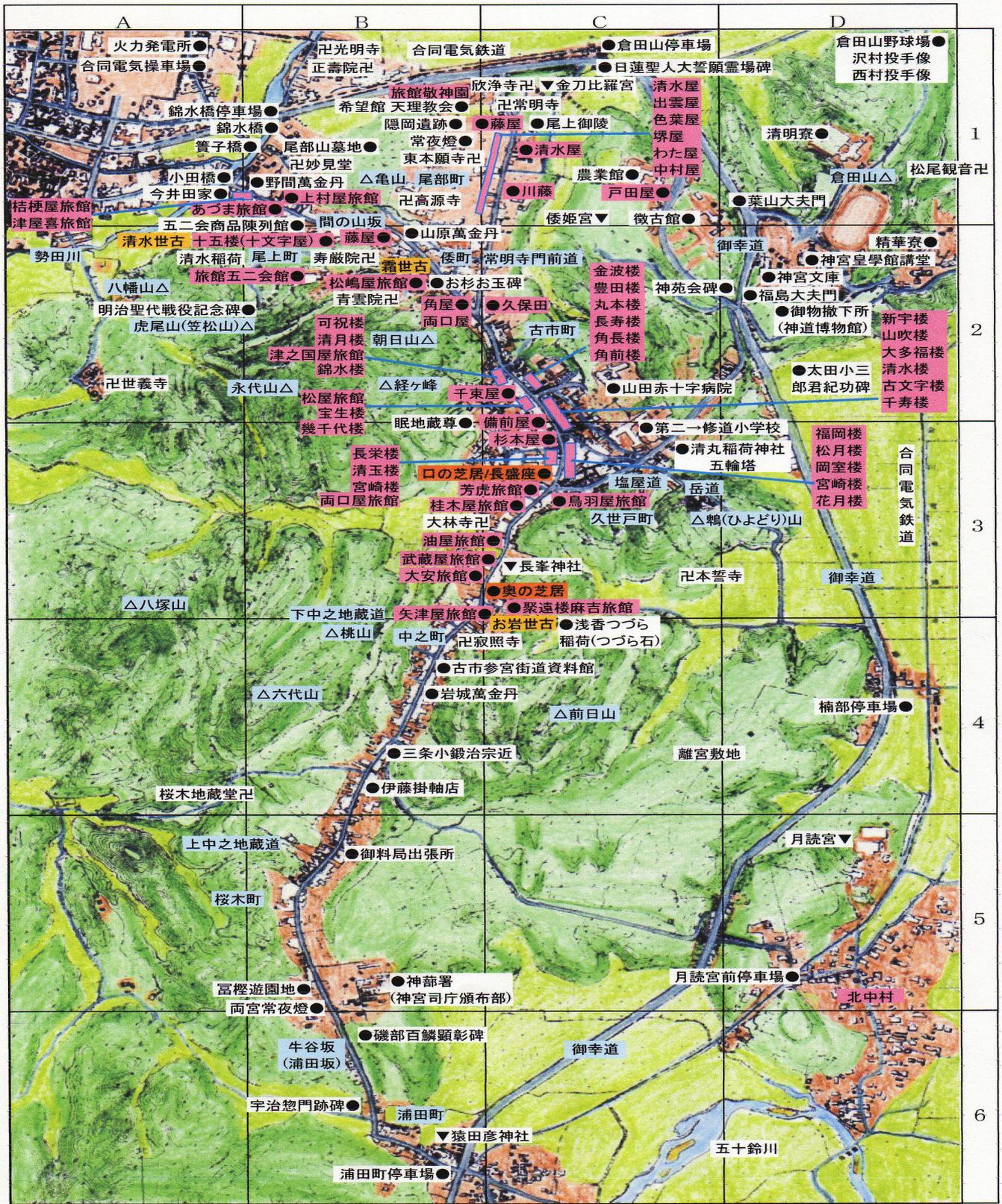


近世伊勢参宮名所図会

古市周辺
2023年9月1日



大日本帝国陸地測量部 昭和5年実測及仲図修正の地図の一部を拡大し着色、古い絵葉書に出てくる名所について、あった(と思われる)場所について年代無視で示しています。間違っている所や追加しなければならない所もあると思いますので、現地に行って確認し更に精度を上げたいと思っていますし、ご指摘いただければ幸甚です。

山	朝日山	あさひやま	B2	古市町 ここから撮影した日赤の写真あり
山	永代山	えいたいさん	B2	勢田 ここからの眺望写真が残っています
山	亀山	かめやま	B1	尾部町
山	経ヶ峰	きょうがみね	B3	倭町 江戸時代の地図に笠松の但書が？
山	倉田山	くらたやま	D1	神田久志本町
山	虎尾山	とらおやま	B2	尾上町 明治33年神都実測図には笠松山と記載。ここからの眺望写真が残っている
山	八塚山	はちつかやま	A4	勢田町
山	八幡山	はちまんやま	A2	岡本2 ここからの眺望写真が残っています
山	鶴山	ひよどりやま	C3	久世戸町
山	桃山	ももやま	B3	勢田町
山	六代山	ろくだいさん	B4	勢田町
河川	五十鈴川	いすずがわ	D6	宇治浦田町 別称 御裳濯(みもすそ)川
河川	勢田川	せたがわ	A1	岩淵23
橋	小田橋	おだのはし	A1	尾上町
橋	錦水橋	きんすいばし	B1	岩淵3
橋	箕子橋	すのこばし	B1	岩淵3
道路	間の山坂	あいのやまさか	B2	倭町
道路	牛谷坂	うしたにざか	B6	宇治浦田町 別称 浦田坂
道路	上中之地蔵道	かみなかのじぞうみち	B5	桜木町(位置修正)
道路	塩屋道	しおやみち	C3	古市
道路	下中之地蔵道	しもなかのじぞうみち	B3	中之町(位置修正)
道路	常明寺門前道	じょうみょうじもんぜんみち	C1	倭町
道路	岳道	たけみち	C3	久世戸町
道路	御幸道り	みゆきどうり	B1	岩淵等
電車	合同電気鉄道	ごうどうでんきてつどう	BC1	岩淵等
駅	停車場 浦田町	ていしゃじょううらたちょう	B6	宇治浦田町
駅	停車場 錦水橋	ていしゃじょうきんすいばし	B1	岩淵3 別称 前山
駅	停車場 楠部	ていしゃじょうくすべ	D4	楠部町
駅	停車場 倉田山	ていしゃじょうくらたやま	C1	神久2 別称 古市口
駅	停車場 月読宮前	ていしゃじょうつきよみぐう	D5	中村町
町名	浦田町	うらたちょう	C6	旧宇治浦田町
町名	尾上町	おのうえちょう	B2	旧妙見町
町名	尾部町	おべちょう	B1	岩淵3 旧常明寺門前町
町名	北中村	きたなかむら	D5	中村町
町名	久世戸町	くぜとちょう	D3	久世戸町
町名	桜木町	さくらぎちょう	B5	桜木町 旧上
町名	中之町	なかのまち	B4	中之町 旧下中之地蔵町
町名	古市町	ふるいちちょう	C2	古市
町名	倭町	やまとちょう	B2	倭町 常明寺門前町
公共	神部署	かんべしよ	B5	中村町 現 神宮司庁大麻課
公共	御物撤下所	ぎよぶつてつかじよ	D1	神田久志本町 明治42年頃建設のち神宮文庫？
公共	五二会商品陳列館	ごにかいしょうひんちんれつかん	B1	尾上町
公共	御料局出張所	ごりょうきょくしゅつちょうじよ	B5	桜木町
公共	神宮文庫	じんぐうぶんこ	D2	神田久志本町 大正14年 1925 移転
公共	神宮徴古館	じんぐうちょうこかん	C1	神田久志本町 明治42年 1909 新築
公共	神宮農業館	じんぐうのうぎょうかん	C1	神田久志本町
公共	富樫遊園地	とがしゅうえんち	B5	桜木町
公共	離宮敷地	りきゅうしきち	C4	中村町
公共	古市参宮街道資料館	ふるいちさんぐうかいどうしりょうかん	B4	中之町
公共	山田赤十字病院	やまだせきじゅうじびょういん	B2	倭町

施設	大鳥居	おおとりい	D2	平成5新設 伊勢市駅前にあったものとは別
学校	修道小学校	しゅどうしょうがっこう	C2	楠部町
学校	神宮皇學館	じんぐうこうがっかん	D2	神田久志本町 のち皇學館大学 大正8年移転
学校	精華寮	せいかりょう	D2	楠部町
学校	清明寮	せいめいりょう	D1	神田久志本町 現伊勢高校
神社	浅香つづら稲荷	あさかつづらいなり	C3	中之町(つづら石)
神社	金刀比羅宮	ことひらぐう	C1	倭町
神社	猿田彦神社	さるたひこじんじゃ	B6	宇治浦田町
神社	月読宮	つきよみのみや	D5	中村町
神社	長峯神社	ながみねじんじゃ	C3	中之町
神社	倭姫宮	やまとひめじんじゃ	C1	楠部町
寺	欣浄寺	ごんじょうじ	C1	倭町
寺	高源寺	こうげんじ	B1	岩淵3 廃寺
寺	光明寺	こうみょうじ	B1	岩淵3
寺	桜木地蔵	さくらぎじぞう	B4	桜木町(位置修正)
寺	寂照寺	じゃくしょうじ	C4	中之町 月僊が再興
寺	寿巖院	じゅがんにん	B2	尾上町
寺	青雲院	せいうんにん	B2	勢田町
寺	赤心門寺正壽院	せきしんもんじ せいじゆいん	B1	岩淵3
寺	世義寺	せぎでら	A2	岡本2 日本三大護摩の一つ
寺	大林寺	だいらんじ	C3	古市
寺	中山寺	なかやまでら	外	勢田町
寺	東本願寺	ひがしほんがんじ	C1	岩淵3 現、浄明寺
寺	本誓寺	ほんせいじ	C3	久世戸町
寺	妙見堂	みょうけんどう	B1	岩淵3
墓	尾上御陵	おべごりょう	C1	倭町 倭姫命の陵墓
碑	間の山 お杉お玉碑	あいのやま おすぎおたま	B1	尾上町
碑	磯部百鱗顕彰碑	いそべひやくりんけんしょうひ	B6	宇治浦田町
碑	宇治惣門跡碑	うじそうもんあとひ	B6	宇治浦田町
碑	太田小三郎君紀功碑	おおたこさぶろうくんきこうひ	D2	楠部町
碑	常明寺跡碑	じょうみょうじあとひ	C1	倭町
碑	神苑会碑	しんえんかいひ	D2	楠部町
碑	日蓮聖人 大誓願霊場碑	にちれんしょうにん だいせいがんれいじょうひ		神田久志本町
碑	明治聖代戦役記念碑	めいじせいだいせんえききねんひ	B2	尾上町
碑	両宮常夜燈	りょうぐうじょうやとう	B6	桜木町
墓	沢村栄治墓	さわむらえいじ はか		岩淵3 尾部(妙見)山墓地
遺跡	隠岡遺跡	かくれがおかいせき	B1	岩淵3
施設	神都希望館	きぼうかん	C1	倭町
邸	今井田家	いまいだけ	B1	尾上町 本居宣長養子家
門	葉山大夫門	はやまたゆうもん	D1	神田久志本町
門	福島大夫門	ふくしまたゆうもん	D2	神田久志本町
会社	合同電気(株) 火力発電所	ごうどうでんき かりよくはつでんしょ	A1	岩淵2
商店	岩城萬金丹	いわきまんきんたん	B4	桜木町 残念ながら空き地になっていた
商店	三条小鍛治宗近	さんじょうこかじむねちか	B4	桜木町 刀鍛治(位置変更)
商店	野間萬金丹	のままんきんたん	A1	尾上町 朝熊野間萬金丹妙見町支店
旅館	麻吉旅館(聚遠楼)	あさきち	C3	中之町 宿泊記参照
旅館	旅館五二会館 五二会ホテル	ごにかいかんほてる	B2	尾上町
旅館	旅館十五楼 (勅使齋館・十文字屋)	りよかん じゅうごろう	B2	尾上町

遊郭	油屋	あぶらや	C3	古市 油屋騒動の舞 台山田駅前に支店があった
遊郭	角屋	かどや	B2	倭町 のち両口屋
遊郭	杉本屋(菊寿楼)	すぎもとや	C3	古市(位置変更)
遊郭	大安	だいやす	B3	中之町
遊郭	千束屋	ちづかや	B2	尾上町 東海道中膝栗毛に登場
遊郭	長栄楼	ちょうえいろう	B2	古市 いろは食堂
遊郭	備前屋(牛車楼、桜花楼)	びぜんや	C3	古市
遊郭	藤屋	ふじや	A1	尾上町 東海道中膝栗毛に登場
遊郭	両口屋	りょうぐちや	C2	古市
演劇	奥の芝居	おくのしばい	C3	中之町
演劇	長盛座	ちょうせいざ	C3	古市 芝居跡碑が立つ 現新富座の前身

古市

(ふるいち)は江戸時代幕府非公認ながら江戸の吉原、京都の島原、大坂の新町、長崎の丸山とともに五大遊廓の一つに数えられた遊里であった。十返舎一九(じっぺんしゃ いっく)の『東海道中膝栗毛』をはじめとして、当時の文学作品にも多くとりあげられている。

地理的には外宮と内宮の間にある長峰(ながみね)あるいは間山(あいのやま)と呼ばれる低い丘陵にあり、街道は尾根筋を通っている。参宮客は山田側の妙見町[現尾上町]の尾部坂(おべさか)を登り古市へ入った。

この地に遊廓ができたのは江戸時代の初めで、それまでは人家もなく杉木立の続くさびしい所であった。初めの頃は娼家は貧相なものであったが年々盛んとなり、寛文9年(1669)には山田奉行花房志摩守が風紀肅正のため遊女追放令を出すまでになった。しかし、その後も勢いは止まず、ついに寛文・延宝の頃(1661~1681)娼家は茶屋と称し、遊女は茶屋女あるいは茶汲女、茶立女と称して2人まで置くことが認められ、これより一層発展することとなった。

寛政6年(1794)の古市大火後は、三都の遊廓をまねて大厦高楼(たいかこうろう)が軒をつらね、牛車楼こと備前屋、杉本屋、油屋は三大楼と呼ばれた。これらの妓楼ではせり上り舞台を持ち、伊勢音頭をはやし、踊りを舞って大いに人気を博した。

古市には隣の中之地藏町(現中之町)を含め、古市三座といわれた芝居小屋があった。ここでは参宮客の多い春に浄瑠璃や歌舞伎が興行されていた。三座は口(くち)の芝居(古市郵便局近く、記念碑あり)、中の芝居(場所不明)、奥の芝居(中之町麻吉旅館へ入る左角)といわれ、上方役者たちはその登竜門として古市での評判を大変重視したという。

この古市も江戸時代後半、参宮客の減少とともに除々に衰微にむかい、天明年間(1781~89)に70軒あった茶店も幕末の嘉永5年(1852)の火災の頃には40軒へと激減してしまっていた。

三大妓楼

備前屋は古市において最も早く伊勢音頭の舞台を作り伊勢音頭を用いた。寛政6年(1794)五代目の当主がせり上げ舞台を始めた。左右から娼妓が出て中央ですれ違い、左右に消えるのが特徴だった。備前屋の定紋は源氏車を模したもので、牛車楼と呼ばれ、桜花楼の別称もある。

油屋は明治22年、当主白井清栄門が妓楼をやめ旅館に転業し繁盛した。山田駅前に支店もあった。

昭和14年3月の火災により**杉本屋**(菊寿楼)、**備前屋**が焼失し、両屋はすぐ再建され、営業を再開した。



小田橋
古市の入り口



古市芝居跡碑



備前屋跡碑 現在の備前屋交差点

昭和20年(1945)7月29日の空襲で、油屋から備前屋、杉本屋を含み、倭町寿司屋角屋までを延焼し、古市遊廓も灰塵と帰し、その姿を消した。

旅館大安は明治38年2月中之町伊勢屋の火事で類焼したが、女将井村かねの努力により再建されて大旅館となった。二見浦にも支店があったが昭和47～8年頃殆ど休業状態になった。

油屋騒動

寛政8年(1796)5月に古市で起きた刃傷事件をもとにした有名な歌舞伎狂言劇です。事件は27歳の町医者・孫福齋(まごふく いつき)という男が、古市3大妓楼の一つ「油屋」で、馴染みの遊女 お紺(16歳)をめぐり、恋の嫉妬に狂い刀を振り回し、3人を斬り殺し6人を負傷させたというもの。孫福はこの事件後、自殺したが、お紺は49才で病死するまで存命した。二人の墓は並んで大林寺にあるけれど、お紺はそれを望んでいたのでしょうかねえ？

この騒動はたちまちにして大阪に伝わり、道頓堀の劇作家 近松徳三の知るところとなり、数日にして切狂言に仕組まれ、伊勢音頭恋寝刃(いせおんど こいのねたば)と題し、福岡貢(芝居での孫福齋の名前)を三代目阪東彦三郎、お紺役を嵐大三郎、おしか役は市川市蔵、まん乃役は中村雀右衛門、料理人喜助役は市川滝十郎で、早くも寛政8年7月に大坂の角座で上演。各地で好評を博し、伊勢音頭油屋騒動は広く世に紹介されることとなりました。多くの歌舞伎関係者が墓参している。



大林寺



二人の墓



油屋跡碑 近鉄陸橋脇

両宮常夜燈

牛谷坂頂上付近にあり、大正3年2月27日建立。この常夜燈の管理を油屋旅館が担当していたとある。

富樫遊園地

同地にあった



角屋

往時を偲ばせる屋敷。この店先には昔、両口屋の看板があったような？看板が掛かっていたのは事実であるが、ここは角屋という旅館兼すし屋だった。戦後、買い取られ両口屋と改称されたと言う。昭和45年廃業。2012年更地になってしまいました。残念。



千束屋里登が牛谷坂を改修

千束屋は当時の数ある古市の遊廓の中で屈指の妓楼であった。千束屋(ちづかや)久五郎の妻里登(りとは)は晩年になって外宮長官言彦の話聞き、突如遊郭を廃業し貸衣装屋に転じた。妓女を解放し今まで築き上げてきた財産を牛谷坂改修のために投げだした。文化2年(1805)の秋に開始された工事は翌3年の春に完成。りとはこの功績により苗字帯刀を許され以後山田りとはと名乗る。文政11年(1828)、88歳でこの世を去る。

牛谷坂と呼ばれるこの坂は、まず延宝2年(1674)内宮長官の藤波氏富が山田奉行桑山丹後守貞政の許可を受け、数百両の私財を投じて改修された。参拝者は内宮への近道となるこの牛谷坂を利用するようになるが、この当時の道は今のようなまっすぐな坂道ではなかった。元禄10年(1697)山田奉行久永丹波守重高の命により再度改修工事が行われる。さらに、文化2年(1805)古市の妓楼、千束屋の主人りとは(当時65歳)は、山田奉行の許可を得て、千両余りを投げ出して本格的な改修工事を行うが、これが現在の牛谷坂である。牛谷という名はこの付近に牛鬼という怪物がいたという牛鬼伝説の由来による。



牛谷坂



浅香つづら稲荷

麻吉の裏入口のそばにあります



旧神部署

(現神宮司庁大麻課)

お杉お玉

尾部坂に二人の情勢芸人がいて、三味線や胡弓にのせて唄い銭を乞うた。参詣者が顔に向けて投げ銭をすると、三味線の撥(ばち)で受けたり、身を動かして避けたりした。お杉お玉は固有名詞ではなく、同時に何組も何代もいた女性大道芸人の通称。



間の山 お杉お玉碑
位置が変わりました

宇治惣門跡碑

牛谷坂を下りきると、猿田彦神社に到着する手前に「宇治惣門跡碑」がある。ここが古市終着点だ。ここに明治維新頃まで黒門があり、番所を設けて罪人等の通行を取り締まっていたという。小さな川は滝倉川といい、架かる橋を黒門橋という。



徴古館入口に立つ
古市への道標



月読宮



妙見堂



高源寺



寿巖院



長峯神社



桜木地蔵



桜木地蔵そばに立つ
月よみさんへの道標

桜木地蔵高札説明文：昔からいろいろな呼び名で親しまれてきたこの地蔵は桜の大樹の元に鎮座されていたことから桜木地蔵と名付けられたと言われています。この地は桜木町西裏字正亀田で鐘旭田に通じ、その昔、もこもが池を望み、桃山を経て地獄谷不動池に至る勢田川の源流地でありました。江戸時代に入り、了運尼禅宜上人がここに小寺を建立されご本尊を大切にお祀りしていたと伝えられています。世の人々を守る霊験と子育て、病気除けの妙徳も聞こえるこの地蔵尊は古来より多くの方々の信仰を集めております。1712 正徳2年山田奉行を勤めた大岡越前守忠相もこの地蔵を訪れ井戸奉行に出世したという伝えから出世地蔵とも呼ばれております。

勢田川の少し上流、伝法寺柿で有名な現、藤里町伊勢道路 勢田町交差点近くに「中山寺」というのが、大正期の観光案内に掲載されていました。



中山寺



本誓寺



沢村栄治墓

ペーブルースを打ち倒した郷土のほこり
読売巨人軍の豪腕投手の墓(尾部山墓地)
背番号は14番 像は倉田山野球場前にあります

2011年沢村栄治顕彰会により伊勢市観光文化会館裏に『沢村栄治生家跡』碑が建立されました。

西村幸生投手像

倉田山野球場前
大世古町出身。1930年代、主戦投手として関西大学、大阪タイガースで黄金時代を築いた。

常明寺門前町(現倭町)



日蓮聖人大誓願霊場



常明寺跡碑



東本願寺



倭姫宮

倭姫命御陵碑

金刀比羅宮



隠岡遺跡

現在の倭町の坂は古市から左手に東本願寺(伊勢教堂)を見ながら北に下っていくと切通しがあって御幸道路にぶつかる。その右手東側に金刀比羅宮と倭姫命御陵、西側に天理教三重教務支庁などがあるが、この切通しは明治40年着工、同43年に竣工した御幸道路が出来た頃に造成されたものと考えられる。切通しで分断される前のこの場所は1体の丘陵地で、古市から下った坂道は東本願寺の先で西側へ左折する、一与坊墓地を左手に見ながら二見街道に抜ける西の坂しかなかった。

倭姫命

(やまとひめのみこと)は、日本神話中の登場人物。第11代垂仁天皇の第4皇女。母は皇后日葉酢媛命。また日本武尊の叔母とされる。第10代崇神天皇の皇女豊鍬入姫命の後を継ぎ天照大神の「御杖代(みつえしろ、神の意を受ける依代)」として大和国から伊賀・近江・美濃・尾張の諸国を経て伊勢の国に入り、神託により現在地に伊勢神宮を創建したとされる。倭姫命が伊勢神宮を建立するまでに八咫鏡を順次奉納した場所は元伊勢と呼ばれる。後に、蛮族の討伐に東へ向かう日本武尊に天叢雲剣を与えている。

伊勢神宮鎮座後も倭姫命を祭る神社は存在しなかったが、大正に入り神宮司庁と地元宇治山田市から倭姫命を祭る神社を創建する運動を生じ、1920年1月4日に皇大神宮別宮として倭姫宮の創立が許可、1922年11月5日内宮と外宮の間である倉田山に鎮座した。伊勢神宮を構成する神社としては唯一近代以降の創立である。

(Wikipedia よりコピー)

常明寺

文化12年 1815 山田町之図によると、この場所には常明寺ほか、金刀比羅宮、神落萱社、倭姫岩屋があり、この界隈を常明寺門前町といって古市より少し後世に花街として隆盛を誇った時期があった。

常明寺は天台宗の寺。草創はよく分かっていないが光明寺所蔵文書によると平安期末にはすでに常明寺のことを載せている。当寺はもと真言宗であったが寛永年中(1624~44)に天台に改宗した。古来如何なる因縁でが度会神主家とは関係が深く、毎年正月8日外宮神官が参向し、境内にある神落萱社(かんおとしかやしゃ現存)に於いて祭りをを行い、寺僧も本堂で誦経し、行事が終わって男女陰陽形の餅をまいたという。子の無い者がこれを戴くと子が授かると宣伝されていた。

1186年僧重源ら東大寺宗徒700名の神宮参拝の際、外宮法楽(法楽とは読経や芸能を奉納して神仏を慰めること)の舞台となった古刹であり、同寺に日蓮上人が神宮へ法華宗開宗に祈願した時に参籠(さんろう=祈願のためこもること)したのが大誓願霊場である。

常明寺門前町の入口には鳥居が建っていた。江戸時代の初め頃、この付近を刑場として使用しないことを願って建てたのが始まりと伝えられている。延宝3年 1675 に常明寺がこの鳥居に「両太神宮内院高日山太神宮寺」(宇治山田市史)、「両宮内院高日山常明寺」(勢陽五鈴遺響)と書いた扁額を掲げたことについて神宮から山田奉行所へ容認できないこととして訴えが出て、奉行所は鳥居とともに取り払うように指示したものの額のみを下して鳥居を撤去せず、明治元年6月に勅使の命によって取り払われるまで建っていた。

慶応4年 1868 太政官布告(通称神仏分離令)によって廃仏毀釈運動が勃発(明治4年には収束した)し、伊勢の多くの寺が廃寺となったのと同様に常明寺は明治2年頃 1869 廃寺になったと思われる。その後、明治15年に常明寺跡地に明治2年に廃寺となった欣浄寺が再建された(大正6年一之木へ移転)りするが、御幸道路造成の明治40~43年頃にこの場所は切通しによって分断され、現在の形状になったのではなかろうか?その東側は昔のまま、金刀比羅宮、神落萱社と倭姫命御陵が残った。

なお、現在一之木町にある常明寺は明治27年甲斐国巨摩郡池田村「常円寺」を一之木町日蓮宗説教所へに移し「常明寺」と称す(宇治山田明治年代記 昭57 倉田正邦校訂による)とあり上記「常明寺」とは同名別寺であるよう

にも考えられるが、同寺の高札文には以下のように記されている。

常明寺 号高日山、日蓮宗、当寺の草創は明らかではないが、古くから大神宮祢宜度会家と深いかわりがありました。明治まで倭町にあり、もと真言宗、近世の始め天台宗に改宗されました。宗祖日蓮上人(1222～82)は建長年中(13世紀中ごろ)当時に参籠、神宮へ法華宗開宗の祈願をしたと伝えられています。近世まで寺運盛んでありましたが、明治初年に廃寺となりました。明治23年(1890)宗門の高僧新居日薩上人はこの名跡を承継ぎ、現在地に本寺を建立しました。今次戦災で堂宇焼失。昭和56年本堂、同63年山門を再建しました。主な寺宝に、1. 日蓮常任自筆の石造宝塔1塔、2. 後陽成天皇宸翰(シカン天子の自筆文書)1編。境内に寛政10年(1798)建立の芭蕉の「秋風塚」があります。

旅館敬神園と常夜灯

その西側には、明治期から全国の神宮崇敬者が宿泊する施設として、「旅館敬神園」が経営されていたが大正7年頃に廃業されたようだ。大正8年宇治山田市平面図では同地は既に畑と表示されている。同期に全国の神宮崇敬者から募った浄財によって建立した敬神園の2基の大石灯籠(常夜灯)も建立されたと思われる。現在の隠岡集会所前の市営住宅の角にあったが昭和46年に解体された。創業時期についてははっきりはしない。上記の大石灯籠は同園に誘うランドマークと推測されるので、同園の玄関口は岩淵町、二見への道筋だったと思われる。もし御幸道路が出来た後なら、今の天理教施設のように同道路側に玄関口が出来たはずである。このことから、創業時期は御幸道路が出来る前、明治43年以前だったことが推測される。

神都希望館

その後、大正7年から昭和8年の間で社会教育家後藤静香が中心となって作られた「希望社」は宿泊施設も兼ねて、この地に「希望社付属神都希望館」を昭和4年8月19日に開館した。ここでは同社の精神を広めるため「神都希望学園」を運営していたのと同時に同社の関係者が参宮する際の宿泊施設としても使用されていた。希望社は昭和8年に解散したので、その頃に同館も閉館したと思われる。昭和5年宇治山田近傍地図には「希望館」の記載がある。

天理教三重県教務支庁

昭和12年3月に三重県教務支庁の運営開始され、その後、昭和22年天理教三重互助園(児童養護施設)も認可され現在に至ると思われるがよく分かっていない。

参考:「いにしへの伊勢」山田氏、敬神園所縁の吉岡氏のお話しなど。

栄松山寂照寺

(えいしょうざん じゃくしょうじ 三重県伊勢市中之町 101)浄土宗鎮西派知恩院末。本尊は阿弥陀如来。徳川家康の孫で秀忠の娘、豊臣秀頼の室千姫の菩提を弔うため、延宝五年(1677)に知恩院第37世寂照知鑑上人によって創建された。以来その位牌・遺物を安置して供養してきた。無旦那寺のため、後に財政的に窮乏するが、安永三年(1774)僧月僊が来て、描いた絵を売り寺運を回復する。なお、千姫のお墓は知恩院にある。寂照寺は明治14年(1881)火災にあうが、幸いにして山門と経蔵だけは焼失をまぬがれた。特に経蔵は、享和元年(1801)月僊創設以来のもので、八角回転式の輪蔵、中には鉄眼の一切経を収めており、県の文化財に指定されている。



月僊

(げっせん)寛保元年(1741年)ー文化6年1月12日(1809年2月25日)江戸時代中期から後期にかけての画僧。名は玄瑞・元瑞。字は玉成。尾張国名古屋の味噌商の家に生まれたが、浄土宗の僧となって江戸増上寺に住み、桜井雪館に画を学んだ。その後上洛して知恩院に住し、円山応挙に師事して写実的画風の感化を受けた。また、与謝蕪村の影響も受け、さらに諸派に学んで独自の画風を確立した。乞食月僊と呼ばれたが、1774年(安永3年)伊勢国宇治山田(現在・三重県伊勢市)の寂照寺を再興してそこで没した。京都妙法院・愛知県岡崎市昌光律寺・寂照寺に作品が残されている。



世義寺

(岡本2丁目)教王山神宮寺金剛院世義寺。古義真言宗醍醐派。本尊は薬師如来座像(平安前期 市文)。天明年間(729~748)聖武天皇の勅願を奉じて僧行基が前山町亀谷郷に建立したと伝えられている。中世、外宮宮域の西に移り、寛文10年(1670)の山田の大火には幸い類焼を免れましたが、神域と寺門を接するのを憂えた山田奉行によって現在地に転じた。この間大峰山修験道の先達寺院として盛期には十余坊の塔頭を数えましたが、今に残るのは護摩堂である威徳院のみ。毎年7月に行う柴灯大護摩は日本三大護摩の一つと呼ばれ内外両宮の法楽から万民悦楽までを祈る激しい祈祷で当寺の伝統を残している。案内文写す。



世義寺

松尾観音

清丸稻荷神社と五輪塔

説明文:「大五輪(おおごり)の五輪塔」

高さ340cm。本塔の建立については諸説ありますが、藤園雑纂によりますと、「延徳ノ宇治乱ニ山田方ノ打死セシ」者を葬ったところとしています。内宮の宇治と外宮の山田は、古くそれぞれが独立しており、長く対立しておりましたが、延徳元年(1489)には激しく戦いました。この時の山田方の戦死者の合同の供養碑のようであります。…この説は間違いと判断された。無銘ですが、15世紀末のものと考えられます。慶長(16世紀初め)以前の古塔では、三重県下最大とされています。所在:楠部町宇大五輪(おおごり)



皇学館大学

初めて皇学館大学に入ったら昔の絵葉書で見た講堂が再建されました。

2010.12.19 同大学ビッグバンド Moolight Jazz Orchestra のコンサートを聴かせていただきました。



皇学館大学講堂



Moolight Jazz Orchestra

参考文献

フリー百科事典『ウィキペディア(Wikipedia)』、伊勢商工会議所・伊勢文化舎発行「検定 お伊勢さん」写真集 明治大正昭和 伊勢二見小俣、目で見ると伊勢・志摩の100年、図説 伊勢・志摩の歴史 下巻ほか 寛永20年内外宮領図(1643)、寛永中山田郷内惣図(1670)、山田惣絵図(1662)、御神領宇治山田町在惣図(1672) 享保年中宮川以東神領之図(1725 頃)、伊勢路見取絵図(1797)、山田町之図(1815)、山田町分細見(1850)、神都実測図(1900 明治33年)、宇治山田市平面図 宇治山田市編纂(1919 大正8年)、宇治山田商工業案内地図 発行者不明 (1920 大正9年)、宇治山田市(地図) 東京交通社発行 (1923 大正12年)、宇治山田近傍(地図) 大日本帝国陸地測量部 (1930 昭和5年) 橋爪忠三氏・川端義夫氏想起による作成地図の柴田勉氏他の転写地図 (明治初年・30年頃、大正年間~昭和15年、昭和3年・15年・20年末) 宇治山田市街図 滝川書店発行(1954 昭和29年)、伊勢・鳥羽周辺地域図 人文郷土地図発行(2005 平成17年)、その他、各種地図資料